



ふねあいのひろば

第18号



8月2日～4日『富川市民友好親善訪問団』来岡
おかやま桃太郎まつりパレードに参加

ごあいさつ

会長 小坂 淳夫

会員の皆様におかれましては、平素から本協議会の活動に対しまして、格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

「国際・福祉都市」を市政の目標に掲げる岡山市は、近年、アジア地域との連携を重視しており、特に、韓国富川市との交流を活発に行っております。昨年度は、5月の岡山市民友好親善訪韓団の派遣に始まり、7月には富川市子供訪問団が来岡しホームステイをしました。また8月には、111名の富川市民友好親善訪問団が岡山市を訪問し、おかやま桃太郎まつりへの参加等を通じて、より一層岡山市と富川市との友好協力関係を強め、このほか、子供海外派遣事業の派遣先として富川市を訪れ、職員相互派遣事業なども実施されました。

また、昨年4月には岡山市とブルガリア・プロブディフ市は姉妹都市締結30周年を迎え、これを記念し、10月には岡山市民訪問団がプロブディフ市を訪問、プロブディフ市長表敬や市内の各施設の見学、そして「日本・ブルガリア子供絵画展」のオープニングに参加しました。12月にはこの訪問団員の皆さんの写真撮影したプロブディフ市内や交流活動の様子、交流の軌跡などを紹介する「プロブディフ市紹介展」が、岡山あいフェスティバルの事業の一環として開催され、多くの岡山市民にプロブディフ市を身近に感じていただく機会となりました。また、岡山市・サンホセ市姉妹都市締結30周年を記念して岡山市民の寄付をもとにサンホセ市に建設していた岡山公園が、昨年3月完成し、「姉妹縁組サンホセ市展」が開催され、岡山公園を写真などで紹介しました。また、展示会開催に伴い、「サンホセの夕べ」も開催され、岡山公園を取材された山陽新聞記者太田隆之氏を招き講演会や交流会が行われました。このように、市民レベルの活発な交流が、本協議会を中心に催されたことを皆様にご報告申し上げます。

最後に、岡山市のアジアの諸都市との交流が、今後更に拡大し、外国人の方々にとって「住みたい岡山」、「住みやすい岡山」となるよう、更に地域の国際化を推進するため、今後とも、国際交流事業の積極的な推進について、会員の皆様のより一層のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目次

富川市との交流.....	1	友好交流サロン.....	12
岡山市・富川市職員相互派遣.....	3	(1) 国際交流ふれあい講演会	
新竹市との交流.....	4	(2) 外国語教室と日本語教室	
サンノゼ市との交流.....	5	(3) ボランティア活躍記	
サンホセ市との交流.....	6	(4) 無料インターネットサービス	
プロブディフ市との交流.....	7	(5) 「あくら」の発行	
洛陽市との交流		岡山市国際交流祭	15
第13回洛陽市技術研修生帰国.....	8	(1) 日韓学生交流会	
第10回岡山市技術研修生帰国.....	9	(2) オープニング・グローバルビレッジ	
第14回洛陽市技術研修生来岡/ 第11回岡山市技術研修生派遣.....	10	(3) 韓国伝統芸能公演	
第9回岡山市子供海外派遣研修/ 岡山市外国人市民代表者会議・意識調査実施.....	11	(4) 子供のための国際理解フォーラム	
		(5) サルサダンス交流会	
		(6) 青年海外協力隊の見た世界	
		(7) 日中友好茶館	
		(8) プロブディフ市紹介展	
		(9) 姉妹縁組サンホセ市展	
		(10) 国際交流スキーツアー	
		ふれあいトピックス	18
		ホットミニ情報／募集中	19

富川市との交流

岡山市民友好親善訪韓団 富川市訪問

岡山市と富川市は、平成14年2月26日に友好交流協定を締結しました。これを記念して、萩原岡山市長を団長とする総勢127名の市民訪問団が、富川市を訪れました。一行は富川市の「ボックサゴル(桃の里)芸術祭」への参加をはじめ、市内見学を行い富川市民との交流を深めました。
(平成14年5月3日～6日)



ボックサゴル芸術祭パレードに参加



ボックサゴル芸術祭開幕式
元恵榮(うおん へよん) 富川市長と共に参加



「平和の鐘」の前で



富川漫画博物館視察

富川市子供訪問団来日

平成14年7月29日から8月7日まで、生徒14名、引率者2名を含む富川市子供訪問団一行が来日しました。一行は、岡山市子供訪問団が富川市にホームステイした際の受入家庭の子弟であり、今回は、岡山市子供海外派遣に参加した子供たちの家庭に滞在しました。ホームステイ期間中は、学校訪問や各種交流事業等を行い、異文化の国際理解及び国際交流を図りました。



萩原岡山市長表敬訪問



備前焼体験教室



倉敷美観地区参観

富川市民友好親善訪問団来岡

岡山市と富川市との友好交流協定の締結を記念し、富川市から方飛錫(ばんびそく)富川市副市長を団長とする市民友好親善訪問団一行111名が来岡しました。一行は、花火大会参観やおかやま桃太郎まつりへの参加、また文化施設等の視察を通じて、両市の友好協力関係を深めました。(平成14年8月2日～4日)



歓迎レセプション



おかやま桃太郎まつりパレードに参加



訪問団との友好を深めました



富川市駅谷中学校サッカー部員もレセプションに参加



後楽園視察

「美しき富川市」写真展開催

市民親善友好訪問団の来岡に合わせて、写真家の金昌好(きむ ちゃんほ)氏の作品、39点を展示した写真展が開催されました。富川市の街並みをはじめ日韓共催のワールドカップの風景、富川市の祭の風景や文化行事の様子などを展示し、岡山市民に富川市をより身近に感じていただく機会となりました。(平成14年8月1日～8日)



訪問団の方々も写真展に来場



金昌好氏の写真はたいへん好評でした

岡山市・富川市職員相互派遣

平成12年4月14日に韓国富川市長が来岡された際に、締結された職員相互派遣協定に基づき、この度、第3回目の交換職員が岡山市・富川市各1名ずつ相互派遣されました。

富川市派遣職員

氏名 関 庚峯 (みん きょんぼん)

所属 富川市建設交通局道路課

派遣期間 平成14年11月1日～平成15年1月29日

研修分野 岡山市の主要な施策、道路開設、防災について

岡山研修を終えて……

まず、3ヶ月間の研修を無事に終わることができるように私の面倒を見てくださった岡山市の国際課の職員みなさんと研修を担当した各課のみなさんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。振り返ってみると、3ヶ月という時間があったという間に過ぎてもう帰るときが来たのがまだ実感できない。しかし、短い期間いろいろな経験ができたことが一番うれしかったし、前より日本という国に関して深く知ることができたことがよかった。ここで、私が研修期間中に感じたことを簡略に書いてみる。私が岡山について感じた初印象はものすごく静かで平穏な所であることだった。今度の研修の主な目的は、岡山市の道路施設、防災施設、そして地下空間施設に関する現場視察だった。研修期間中に一番印象に残ったのは、小さな施設の補修から大きな道路拡張工事、そして地下空間の建設に至るまで規模の大小を問わず全ての工事を大事にしていることだった。特に、台風や地震など自然災害が多いのでその被害を少なくするための施設などが印象的であって、そのような防災施設の建設技術は、韓国に帰って十分に応用が可能であることが分かった。もっとも驚いたのはこのような施設の全てが50年100年先を考慮して作られたことに驚いた。一つ悔いが残ったのは研修期間が短くてより多くのことが経験できなかったことである。そして、私が研修期間中に一番感動したことは研修を担当したみなさんが私をただ事務的だけではなく人と人としての付き合いをしてくださったことであつた。そのような私に対する暖かい配慮は一生忘れられません。一方、私が岡山に来て一つ気になったことは、意外に日本人は韓国人に関して誤解している部分が多いということである。例えば、日本人は韓国の食べ物全てが辛いと知っていることに驚いた。もちろんキムチやチゲ鍋など辛い物もあることは事実であるけれど、キムチの中でも辛くないキムチもいっぱいあるし、その他にも辛くない食べ物はいっぱいある。つまらない事かもしれないけれど、そのようなことをみると、韓国という国が日本人に間違っただけで知られている事が沢山ある事を知りこれからはより慎重にそして使命感を持って韓国について日本人に正しい情報を知らせなくてはいけないと思った。最後になるけど、岡山での経験は私にとって貴重な経験だった。もしまた機会があれば再び来たいし、その時は、今より長く滞在して日本についてもっと深く学びたい。もう一度研修期間中に事故がなく、無事に終わる事ができた事に対して岡山市役所の皆さんに感謝しているし、ここで知合ったみなさんを一生忘れられません。本当にありがとうございました。



共同溝で研修中の関さん(真ん中が関さん)

岡山市派遣職員

氏名 三宅 博 (みやけ ひろし)

所属 岡山市交通政策課

派遣期間 平成14年11月22日～平成15年2月7日

研修分野 富川市の交通政策、公園を中心としたまちづくり、市民参加の行政について

富川研修を終えて……

富川市と岡山市は、平成14年2月26日に友好交流協定が締結され、今後は文化・学術・スポーツ等幅広い分野で交流が広がっていくことが期待されます。

また、3年目を迎えた職員相互派遣制度により派遣された私も、広い意味での交流の幅を広げ、友好関係を発展させることを目的として富川で研修を行ってきました。

行政研修として、私の専門分野である交通政策を中心に、都市計画や公園について担当職員と意見や情報交換を行いました。研修を終えて感じたことは、両市政策については、数多くの共通の政策があり、今後はお互いの政策を把握し、事業実施個所の特長を理解するとともに、着眼点を活用することによって、それぞれの個性がある都市になると感じました。また富川市は、韓国初のバス情報提供システム(BIS)の導入や数多くのアイデアを取り入れた中央公園など、積極的かつ情熱的に仕事に取り組んでいる職員が多いと感じました。今回の研修で私にとって、印象深く大きな成果は、富川市の交通専門職員及び韓国政府の研究機関の交通専門職の方と情報や意見交換ができたことです。日本で常識のように考えていた高齢化問題や渋滞問題等について、韓国でも問題点として意識はあるものの温度差があり、日本とは別の視点で取り組みや研究を行っていることが体感できました。これからは、広い視野を持って仕事に取り組むことができるとともに、直接会って、情報や意見交換することの重要性を感じました。

また、行政研修だけでなく、韓国では人気のある登山、卓球、ボーリング等を通じて友人が出来ました。ソウル周辺の道峰山と冠岳山に登りましたが、電車に乗って約1時間の近い距離にあり、老若男女をとわず多くの方が楽しんでいくことには、感動しました。登山コースは、山頂付近は、岩肌が露出してけっして楽ではなく、スリルも味わえる、日本とは違った楽しみがありました。語学力が未熟な私にとって、スポーツを通じて友人が出来たことは、大きな成果であり、大事な財産となりました。

また、相互派遣制度で岡山市に來られたミンキョンボン氏とは、岡山では登山や露天風呂に行き、富川では食事を招待して頂くなど、楽しい交流が出来ました。交換公務員ならではの、異国の地での苦くもあり楽しい体験を共有することが出来ました。

私が富川市で派遣された国際通商課には、以前川崎市に派遣された職員の方がおられ、韓国に滞在して味わう、日本との習慣、研修や食事等のスタイルの違い、語学力の壁からくる「とまどい」や「孤独感」を理解してくれる方がいて、心強かったとともに、富川市に派遣された職員として、今後の役割も分かってきました。お正月には、国際通商課長の家に招待され、伝統の儀式や食事を教えて頂いたことも、貴重な体験となりました。

今回の滞在期間中は、富川市の職員の方を始め、富川市と岡山市の交流にご尽力された多くの皆様が、暖かい気持ちで接して頂いて、心から感謝しています。



韓国初のバス情報提供システムを視察中の三宅さん(左が三宅さん)

新竹市との交流

アジア各地域との連携を深めている岡山市と新竹市は、「岡山市日台友好都市議員連盟」が平成12年に結成され同市を訪問したことから交流が始まり、平成13年には、岡山市日台友好都市議員連盟と新竹市政府及び新竹市議会とが友好交流の覚書の調印を行い、同年から岡山市子供海外派遣事業により、中学生の新竹市への派遣を開始しました。昨年度も、岡山市と新竹市はさまざまな交流事業を実施し、より一層友好親善を深めました。

新竹市長一行来岡

平成14年5月9日、林政則(りん せいそく)新竹市長をはじめとする一行6名が来岡しました。訪問期間中萩原岡山市長を表敬し、また西川緑道公園や池田動物園、後楽園等の視察を行いました。



◀ 岡山萩原市長を表敬訪問



西川緑道公園を ▶ 視察する林市長

岡山市民親善訪問団新竹市訪問

平成14年10月7日から10日まで、萩原岡山市長を団長とする総勢103名の岡山市民親善訪問団が台湾新竹市を訪れ、新竹市政府表敬訪問、ガラス工芸博物館をはじめとする市内各施設視察、さらにはサイエンスパーク内にある企業訪問等の各種交流事業を通じて、新竹市民との友好親善を深めました。



左上：歓迎会で挨拶をする岡山萩原市長
左下：サイエンスパーク内視察
右上：風城願景館で新竹市の模型を見学

サンノゼ市との交流

岡山市・サンノゼ市姉妹都市締結45周年記念訪米団派遣

平成14年6月7日から14日まで、岡山市・サンノゼ市姉妹都市締結45周年を記念し、岡山市からSOSO会（サンノゼ岡山交換学生会）を中心とする訪問団が派遣されました。両市において取り組んでいるDV（家庭内暴力）やホームレス等のボランティア活動についてサンノゼ市のボランティア活動担当者と意見の交換を行いました。また、実際に日系コミュニティー老人ホームを訪問したり、サンフランシスコ・グライド教会でホームレスへの給食ボランティア活動を行いました。



ライトレール（LRT）の試乗



サンノゼ市役所1階ホール
姉妹都市の旗の前で



老人ホーム「Fuji Towers」訪問

サンノゼ市民訪問団来日

平成14年10月24日から28日まで、サンノゼ市議会議員ノラ・カンボス氏及びサンノゼ市姉妹都市交流団体パシフィック・ネイバーズ岡山委員会委員長メイ・ウォン・ノバック氏をはじめとするサンノゼ市民訪問団5名が来岡しました。一行は25日に萩原岡山市長を表敬訪問し、その日の夕方に開催された岡山市国際交流祭オープニングイベントに参加し、27日の歓迎交流会でも、訪問団一行は岡山市民とより深い交流を深めました。そのほかに、後楽園や岡山城参観、企業訪問等を行いました。



←萩原岡山市長を表敬

岡山市国際交流祭
オープニングイベントに
参加→



←歓迎交流会

後楽園参観→
鶴鳴館内にて



サンホセ市との交流

姉妹縁組サンホセ市展

〈岡山市国際交流祭〉

平成15年1月22日から27日まで、岡山市・サンホセ市姉妹都市締結30周年を記念して岡山市民から寄付された約5万ドルをもとに平成14年3月、サンホセ市に完成した岡山公園を写真などで紹介する展示会が開催されました。また、1月25日には「サンホセの夕べ」が開催され、岡山公園を取材した山陽新聞記者太田隆之氏による講演会と交流会が行われました。



サンホセ市民の憩いの場となっている岡山公園
(写真提供：山陽新聞社)



写真を楽しむ来場者



太田隆之氏による講演会



交流会の様子

プロブディフ市との交流

祝 岡山市プロブディフ市姉妹都市締結30周年

岡山市ではブルガリア共和国プロブディフ市と姉妹都市縁組を1972年に締結し、親善訪問団の派遣・受入れをはじめ、著名な画家を招いての絵画展などの文化交流、また新体操やサッカー、合気道などのスポーツ交流など幅広い交流を行ってきました。平成14年4月には、めでたく姉妹都市締結30周年を迎えることとなり、これを記念し、岡山市民親善訪問団の派遣や写真展が開催されました。

岡山市民親善訪問団派遣

今回、姉妹都市締結30周年の大きな節目を迎え、岡山市民にプロブディフ市をより身近に感じていただくことを目的に、岡山プロブディフ交流協会・バラの会・当協議会が協働し岡山市民親善訪問団を派遣しました。今回の訪問では、プロブディフ市表敬訪問、また、この訪問団の来訪に合わせて在ブルガリア日本大使館主催の「日本・ブルガリア子供絵画展」を見学し、市内を視察しました。あわせて、ブルガリア共和国の首都であるソフィア市、チェコ共和国プラハ市等の都市も訪れました。
(派遣期間：平成14年10月28日～11月5/7日)



プロブディフ市長・議長表敬訪問



中央公園記念植樹



「日本・ブルガリア子供絵画展」見学



市内視察

プロブディフ市紹介展

〈岡山市国際交流祭〉

平成14年12月24日から26日まで、岡山市役所1階市民ホールでプロブディフ市との姉妹都市締結30周年を記念し写真展が開催されました。この紹介展では、10月下旬に岡山市民親善訪問団がプロブディフ市を訪れた際撮影された最新のプロブディフ市内や交流活動の様子を中心に、交流の軌跡などを写真などで紹介しました。



来場者の方々にプロブディフ市について知ってもらえるよい機会となりました

第13回 洛陽市技術研修生 帰国

洛陽市技術研修生の受入は、国際友好交流都市である中国洛陽市との交流事業として、昭和57年から行っているものです。楊 宏斌さんと郭 跟成さんは平成14年1月29日に来日し、岡山理科大学で研修を受けていましたが、1年間の研修を終え、平成15年1月14日に無事帰国されました。

日本に一年間滞在して得た感想

郭 跟成 (かく こんせい)

(研修先：岡山理科大学 総合情報学部情報科学科)

私は技術研修生として、2002年の1月、日本に来ました。間もなく一年になります。時間がたっぷりあったのに、すぐ帰国の時刻になるのです。一面では、家族や友たちと一年ぶりで懐かしいと思うのですが、日本で得た体験が足りないという感じがあります。2002年の一年間、人との出会いという点で、またそれが短い期限で消えてしまうという点で、非常に特殊な空間です。しかし、その後の人生の中で活かすことができる貴重な体験でもあるわけです。私はこの一年間、いろいろな日本の事情を知って、大学の事情を肌で体験して、とても有益な一年でした。下記は、その主な感想を紹介させていただきます。

1. 日本の社会に対する感想：日本は本当に経済大国ですので、人々は皆幸せに暮らしています。生活も豊かだし、社会問題もないし、それに安全です。たぶん、世界中で一番いい国だと思います。また、全国どこでもきれいです。環境はとてもいいです。交通や配達も発達しています。医療のレベルが高くて、寿命は世界中一番長い国です。政府は効果的な仕事をしています。社会の情報がとても豊富です。国民もいろいろな情報の理解ができるし、生活は不便がないです。羨ましいです。これから、私は帰国後、ぜひしっかりと仕事をして、中国の人々の生活が日本の方の生活のようになるため、貢献していこうと思っているのです。
2. 大学でのゼミ会についての感想：毎週の発表はよいゼミ会でした。ゼミ生の皆さんは毎週発表があって、怠けることができません。発表は皆さんを前にして、自分のレポートがよくなければならないという気持ちをもって、効果的な勉強の促進手段になるわけです。先生も学生さんの情報の理解ができます。
3. 学会の会議についての感想：オブジェクト指向シンポジウムと第1回情報科学技術フォーラムに参加しました。専門分野によって、別の会場で基調講演や論文発表、パネル討論などが行われました。論文の著者は全部発表のチャンスがあるし、参加者もいろいろな選択ができるし、とても満ち足りた気持ちになった。企業の参加は大切なことと思う。企業は大学にとって、大学は企業にとって、どちらも重要なものです。企業と大学の人々と一緒に各方面の討論をするのは、とても有益なことです。討論会はよい形式ですし、内容も良いです。専門の問題にとって、企業、大学と研究所など、各方面のひとは自分の意見を主張して、参加者も質問して、討論して、とてもよい形式だと思います。会議の準備がきちんとしていて、申し込みや資料販売とか、プログラムもはっきりしたものでした。

日本の方は私に対してとても親切です。岡山理科大学で私の担任の大西先生はとても熱心で、優しく、先生にいろいろご指導、ご援助をいただき、厚くお礼申し上げます。また、総合情報学部の宮地先生、劉先生などの皆様方にも感謝しています。それから、西川アイブラザの日本語の先生は日本語のご指導だけではなく、活動がたくさん行われましたので、私は日本人の生活の各方面の事情を理解できました。見島三知先生、吉田友花先生、福本先生、後谷先生他、皆様のことをいつまでも忘れません。国際課皆様方には大変お世話になりまして、誠にありがとうございました。これからも、できるかぎり私は中日友好の事業に貢献していこうと思っています。



大西壮一先生と(右が郭さん)

岡山での思い出

楊 宏斌 (よう こうひん)

(研修先：岡山理科大学 工学部機械システム工学科)

2002年は私の人生の中の特殊な一年でした。ちょうど中日国交正常化30周年に第13回洛陽市技術研修生の一人として岡山に来ることができたのは本当に光栄に思います。岡山空港で国際課の方にお出迎えいただいた様子がまだ昨日のように覚えています。でも帰国は迫ってきました。一年間本当に短いですが、でも岡山市各方面の援助により大きな収穫を果しまして、とてもよい一年間、また有意義な一年間でした。

岡山に滞在した一年間、多くの思い出ができました。日本に来る前、日本人と英語で話せば通じるだろうと思いましたが、日本に来てから、私の間違いがすぐ分かりました。実は中国式の英語と日本式の英語は通じない場合が多かったのです。お互いにさんざん苦労したものです。真の友好はやはり言葉の問題です。だから岡山に来たばかりの時は、一生懸命に日本語の勉強を始めました。3か月になると日本人との交流が段々やすくなりました。半年過ぎると研修の仕事はますます順調になりました。それがとても嬉しかったです。

また市役所に行って、市役所で接した方々がいつもちゃんと仕事をする様子は深い印象を残しました。皆様はいつも優しいし、親切だし、それからサービスのよさに感動させられました。中国の公務員たちはいつか市役所の方々のようにりっぱな仕事をする事ができるよう、私はその日を期待しています。

日本に来る前、日本は経済大国で、とても発達した国であるとよく聞きました。でも今回来て見て肌で感じて、日本のいろいろなことがよく分かりました。中国と日本との格差は技術だけじゃなく、自然の美しさとか、環境と文化遺産の保護とか、皆交通ルールを守るとか、生れて初めて経験する社会の秩序など、すべて中国は学ぶべきものです。帰国のあと、そういったものを是非洛陽の人に伝えます。いつか中国人は日本人のように幸せに暮らすことができるのを祈ります。

いよいよ帰国は近づいて、気持ちはわくわくします。さようなら岡山、さようなら日本。国際課の皆様、友好交流サロンの先生、理科大学の先生と学生、日本で出会った友達、いつまでも忘れない。いつの日か中国へ行くときは、予め私に教えてください。私のできる援助をしようと思います。



田中雅次先生と(手前が楊さん)

第10回 岡山市技術研修生 帰国

岡山市と洛陽市は昭和56年4月に友好都市縁組を締結して以来、幅広い分野で様々な交流を進めており、その一環事業として現地で語学等の研修をし、併せて洛陽市民との友好を深めることを目的として、平成5年度から技術研修生を洛陽市に派遣しています。洛陽市で昨年4月から1年間の中国書道の研修を終え、元気に帰国された第10回岡山市技術研修生の2名の方に、洛陽での生活や交流の思い出を綴っていただきました。

中国との縁

太田 智子

「こんにちは」「ありがとう」「さようなら」喋れるのはそれだけ。歴代の名跡が、今現在も生きている中国。その歴史の重みと文化に浸り勉強することは、書を学ぶ私にとって、必須だった。1年前、たったこの3つの言葉だけを持ち、こんな素敵なチャンスに心から感謝しながら、洛陽へと旅立った。

この国では、感情をセーブすることなどしない。おなかを抱えて笑い、思いっきり怒る。大声で泣いたって構わない。精一杯生きている感じが気持ちいい。

辛いこと、悲しいことも、じっくり味わうつもりではいたけれど、突然やってくる困難に、いつも戸惑い悩まされた。が、それ以上に、親身になって助けてくれる人々の暖かさが、心に染みだ。

言葉を持つことよりも、心を開いて「洛陽人」として生きていくことの方がずっと大切なんだ、と気付いた頃から私の言葉と友達は少しずつ増えていった。

中国の人々は「縁がある」という言葉を好んで使う。こんなにたくさんの方がいる、でもその中で出逢えたんだ、それが「縁」なんだ、と友人は教えてくれた。中国との繋がりは今始まったばかり。この縁をずっと大切にしていきたい。

私に出来ること、それはとても小さなことだけれど、今後少しでも日中友好のお役に立てる様、努力したい。そして、日本で暮らす外国人のよき理解者になれば、と思っている。



洛陽大学・中秋節の食事会にて
(左から2番目が太田さん)

洛陽での1年間

神崎 昌平

私は今回、書道研修生として洛陽で1年間を過ごした。日本書道と中国書道との違いについて追求したいという目的のもと、受けた研修には技術面、また書道に対する意識面において新しい発見をすることができた。書道の世界は奥深く、私が知ることできたものはほんの一部に過ぎなかっただろう。新しい発見の中には疑問に思う部分もあったが、それら全てを含めたこの1年間の書道研修は私の書道観を新しいものに変えてくれた。

そして、私はこの1年間、書道の研修をする傍ら、日本語教育の現場へも積極的に参加するように心掛けてきた。

日本語を熱心に学習している中学生、高校生、大学生の姿を目の当たりにし、確実に日中関係が深まっているということが実感できた。また彼らの姿には、日中交流を目指し中国語と向き合っている私自身の意識との一体感があった。彼らと接していると、自分が本当にわずかではあるが日中交流の一端を実際に担うことができているという喜びを感じ、これからも更に同じような方面で活躍していきたいという気持ちが強くなっていった。

今、洛陽にいる日本人は少ない。日本語教材も不足している。多くの日本人と交流することは最良の学習方法であるが、その機会の少ない彼らにとって私との交流がよい刺激となってくれたなら幸いなことだ。

……古都洛陽。私はこの街で、異国で生活するということの厳しさを教わった。日本に留まらず、大きく世界を見ることで自分の視野も少なからず広がった。様々な出来事にぶつかりつつも常に新鮮な気持ちであったように思う。この1年間は将来の自分、また私と洛陽との関係において新しくスタートを切ることができたよききっかけとなった。こんな貴重な時間を過ごすことができたのは岡山市、洛陽市をはじめ、私を陰ながら支えてくださった方々のおかげだと思っている。この場を借りてお礼申し上げます。

外国語学部の先生方と
(右から3番目が
神崎さん)

